

(様式1)

自己評価票

作成日 平成23年11月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102548		
法人名	有限会社 サンプル		
事業所名	グループホーム 小吹ケアセンター	ユニット名	しらんユニット
所在地	〒 310 - 0914 水戸市小吹町705番地の8		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870102548&SCD=320&PCD=08
------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ユニットカラーに掲げている利用者の思いを汲むということに重みをおき、日々のケアに取り組んでいます。日常の中で、様々な活動計画を立てますが、まずは利用者様に「食べてみたいもの、行ってみたいところ」等意見を伺い、実現可能なことは、迅速に取り入れ提供を心がけています。利用者様の生き方、こだわり、一人ひとりの気持ちや想いを受けとめて適えるべき努力を行動へとつなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとしての理念を掲げ、それを基に各ユニットが利用者の状況を踏まえ、各々のユニットカラーを打ち出し取組んでいる、常日頃より職員が意識できるよう職員休憩室や目に付くところに掲示している。また、年度始めの施設便りにユニットカラーをのせ、家族にも伝わるようにしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1～2回、施設周辺歩道等のごみ拾いを入居者とともに行ったり、シルバー体操のボランティアにきてもらっている。また、毎年中学生の職場体験学習の受け入れを実施している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症ケアに関すること（施設内勉強会資料の説明・配布）を利用者の生活状況も踏まえ伝えることで理解に結びつくように取組んでいる。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症ケアに関すること（施設内勉強会資料の説明・配布）を利用者の生活状況も踏まえ伝えることで、何らかの形で認知症の方に係ったことのあるメンバー自身やメンバーの知人の話など意見の交換ができるようになってきており、家族の思いなどに触れられ感じたことを日常のケアに活かせるように努めている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者も多く、月初めの状態報告のほか、事業所の取組み、利用者の状態変化に応じ連絡を取り合い相談・助言等受けている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・事故・虐待予防委員会を設置し、勉強会等で理解を深め日頃のケアでも意識的に取組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・事故・虐待予防委員会を設置し、勉強会等で理解を深め、高齢者（特に認知症）の方に対して気遣いや配慮に欠けた言葉、接し方にならないように意識し、職員同士注意を払い防止に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保健婦による勉強会を実施。施設内・外部研修を重ね、理解度を向上を図る。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時は事前に、契約時は契約内容説明時に利用者・家族の意見の確認作業を行い、理解・納得を得られた上で捺印を行っている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設けているとともに家族が訪問された場合に利用者の状態を報告しながら、家族の意見等聴衆に努めている。利用者においても、日常的に思いを聴衆し、運営に活かしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット間の意見や提案をユニットリーダーが取りまとめ、月一回の代表者会議で管理社へ報告している。その他、職員全体会議での職員の意見を確認する機会を確保している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の仕事に対する重要視する点（給与、労働時間）も異なれば、満足度もことなる。一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、統制を図りつつ働く姿勢、能力等が反映される人事考課にて各自のモチベーションがあがるよう条件の整備に努める。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会を設置し、委員会ごとに施設内研修を受け持ち、課程を通して職員の成長に繋がる取組みをしている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や施設行事を通し、他事業所等への相互訪問等を取り入れ、サービスの質の向上へと繋がる取組みを取り入れていく。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニットの理念にも入っていることで、入居者の言葉、心の声に耳を傾けるよう意識しながら接している。声かけや職員の表情、声のトーン等安心していただけるよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がおかれている状況を理解し、家族の立場にたって気持ちを受け止め、傾聴する姿勢で接し、信頼関係がきづけるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が必要としているサービスを検討し、他関連のサービス支援と連携をとりながら、安心してサービスを利用できるように心がけている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような気持ちで接することを心がけ日常をともに過ごす中で、利用者の気落ち理解できるようになっています。時に意見がぶつかりあうこともあります。話し合いを重ねることで互いの思いを理解し合えるようになっています。クッキングの調理については味付けや切り方など利用者より教わることも多い。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族ともに互いに思いを素直に伝えることができない場合もあり、双方から伺った思いを現様子と照らし合わせながら、仲介し伝えることで、喜ばれたり、安心へと繋がっている状況がある。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に手紙で交流を続けていることが多い。その場合、継続できる投函の代行をしている。また、昔お世話した方の定期的な面会などもある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をみて、共同スペースでの席を配慮したり、日常的作業（洗濯物畳みや食器拭き等）で入居者が自然と関わり合いをもてる場面を支援している。利用者同士、「何か落ちたわよ」「大丈夫？」等自然な声かけあいが見られている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、予測される場合は、相談や支援に応じる姿勢であることを契約終了時に伝えている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の話に耳を傾けながら、希望されることで可能なことから支援を行っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境継続にて畳を敷いたり、環境維持等取り入れることができるものは取り入れ支援している。昔の話を聞いたりしながら、利用者の習慣や生活歴などの把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本は本人の過ごしたいように過してもらっている。利用者の能力に応じ、役割なども検討しながら、行ってもらっている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に3ヶ月に1回のペースでカンファレンスを実施している。本人に必要なことや気をつけることを話し合い、ケアプランに入れている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の目的として、日常の中で気づきやケアプランに基づいた内容の記録としているが、日常の記録からの情報共有はできているが、ケアプランの見直しに反映されるまでの内容には到達しきっていない現状がある。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時に応じ、対応方法を検討している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現時点で活用しているケースはない。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続・変更についてや入所後、直近で通院歴の症状のない診療科への受診が検討される場合において家族の通院先の意向の確認を行い、入居前の関係性が継続できるよう対応している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師や隣接施設の看護師と連携をとっており、協力病院の看護師とも利用者の状況を密に相談し、指示・助言を受けながら、日々の健康管理に努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が定期的に病室を訪問し、本人の病状について看護師に聞き取りをし、状況把握を行っている。また、早期退院できるよう病院より今後の方向性や受診についての説明を受け、家族・主治医とともに話し合いの場を持っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の発生しない、身体的機能の低下及び認知症の進行に伴う重度下については、長期的支援の継続ができています。終末期に向けては、現在検討を重ねている状況にある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルを基に職員はいつでも振り返りができるようになっている。また、定期的な勉強会にて知識・方法を取得できるように努めている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に訓練の年間計画を立て定期的に消化・避難誘導、通報訓練を行っている。今年度は、年度末の総合訓練時に運営推進会議メンバー（地域住民・家族）に参加して頂く予定となっており、今後、地域との協力体制作りを具体化していきたい。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや日常的な声かけに一人ひとりその人に合わせた声の大きさやトーン、口調を常に意識している。職員個人では気づかず不用意な発言、言葉使いになってしまうことも予測されるため、職員同士注意しあうこと気をつけている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の参加の有無や起床時間等本人に伺いながら無理のない生活ができるよう心がけている。こうしてほしい、ああしてほしいと思っても遠慮してしまう入居者は多い。利用者が言葉に出せない思いがあることを理解し、日々の中でのかわりの振り返りを行いながら、利用者の思いや希望が叶えられるよう努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望を優先し、レク活動など無理強いしない対応をしている。利用者のペースで一人の時間（手紙書き、音楽鑑賞等）等確保できるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期やその日の天候にあった服を利用者の能力に合わせ、一緒に選択している。全介助の方には、鏡で着ている服や髪型をみてもらい、表情から本人の意思をくむように努めている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じメニュー、同じ時間に一緒に食べている。職員とともに食事を取りにいたり、食後の食器拭きなど片付けをしてもらっており、利用者も個々の役割の中で積極的に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表にて1日の状況を把握し、その日の状況に合わせ、利用者の飲みやすいものを用意し水分量の確保に努めている。食事も本人の好き嫌いをくみとり、対応可能な限り代替品を提供しバランスよく一定した摂取量が保てるようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを利用者の能力に合わせ、声かけ、介助にて口腔内の確認を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握ができていない方には案内する時間を少し変えたり、声かけの量を増やしたりしている。夜間オムツ使用の方でも昼間の時間帯はできるだけトイレに座ってもらい、トイレでの排泄を心がけている。尿とりパット等の使用方法についても、会議で見直しを行いながら、適した対応を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、水分摂取量の少ない方は甘めのジュースやゼリーなど口当たりを変えながら摂取してもらえようしたり、体操・歩行運動も働きかけながら、便秘予防と対応に努めている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日は基本固定となっているが、習慣となり自分の曜日になると自ら準備を始める現状になっている。体調不良や気分的に入浴したくない場合等は翌日に変更したりと柔軟な対応をしている。また、生活のリズムで午前・午後の入浴希望をきき、入浴回数が維持できるようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に食後休みにて体を休めるよう働きかけをしているが、個々のその日その時の状況に合わせて、休みたい時に休んでもらい、利用者本位に合わせた対応をしている。また、ずっと臥床状態にならないよう、椅子（車椅子含む）からソファに座り変えるなどして体への負担軽減の工夫をしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介助をしたり、能力に合わせた対応をしている。何か異変症状が現れた時には、副作用を疑い、処方薬剤情報表を確認し、必要に応じて医療機関と連絡をとっている。飲み忘れや誤薬の予防として、飲んだ薬の袋は回収し、食後に全て確認作業をしている。薬を配布する者、服薬後の最終確認をする者を固定し予防に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等個々の役割を通して生きがいを持たれている様子がある。日常の余暇活動（ドライブ、クッキング、レク支援）等、利用者の話を聞きながら計画に取り入れている。出来る範囲が人により違うため、全員が行えることは少ないも、雰囲気を感じることも支援の一つを考え取組んでいる。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺・施設内中庭等はいつでも外出ができるようになってきている。利用者の声を踏まえながら、計画の下カフェへお茶しにいたり、買物に一緒に出かけたりしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在はユニット内で1名だけ、現金を自身で管理し、施設内売店や買物外出した際に自分で支払している。他の利用者は施設内売店で必要な物を求めることはあるが、支払は請求書処理のため、現金でのやりとりはない。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙等投函の代行を行っている。また電話も施設用のPHSで外部とのやりとりはいつでもできるようになっており、自室で周囲を気にすることなく話もできるようになっている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>車椅子の方が多いため、広く使えるようなテーブルの配置などスタッフ間で常に話し合いをもっている。食堂のまわりを中心に全員で作成した作品や行事の写真、季節の花を飾る等しながら、居心地のよい空間作りに工夫している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間であるフロアにはソファがあり、自由に座ったり、休んだりされている。また、ユニット入り口や廊下途中に椅子を用意し、歩行中疲れた時やふと静かな所に行きたい時にすぐに座れるようになっている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者ごとに様々な家具を持ち込み、個人らしさを演出している。ベッドの向きや配置も利用者の状況に合わせ、利用者・家族と相談のもと工夫している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下に手すりが設置されており、廊下の幅も車椅子同士でもすれ違える広さを確保して歩行者も安全に移動できるようになっている。本人の身体能力に応じ、ベッドの配置位置を検討し、自身の力で動けるように個々に合わせ工夫している。本人ができること、わかることでも支援してしまっていることもあり、カンファレンス等で定期的な話し合いで状況に適した支援ができるようつめていくことが今後の改善点</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない